

# 南伊勢地域連携 日本酒プロジェクト

メンバー数：5名 活動場所：南伊勢町  
 実施主体：南伊勢町行政経営課  
 担当教員：千田 良仁（教育開発センター）  
 活動年度：H30

・道行竈視察 意見交換会  
 （8・9日）

・醸造候補先 打ち合わせ  
 （24日）

・大学にて打ち合わせ（11日）  
 ・伊勢萬にて日本酒の仕込みを視察  
 （2日）

2018

12 1 2

## ●今年度の活動を振り返って(成果と課題)

南伊勢町の道行竈(みちゆくがま)の地域活性化を目的とするこのプロジェクトは、12月から始まりました。道行竈は、南伊勢町内に7つある平家の落人伝説が残る竈方集落の1つであり、水が豊富で米作りに適しており、昔から農業が盛んでした。しかし現在は、後継者不足のため耕作放棄地が増えています。前区長・故島田泉さんの「道行の米作りを復活させたい」という思いを胸に、日本酒造りをきっかけとした地域の再生を目指します。

今年度は、来年度の日本酒造りに向けての活動をしました。水源地の滝や酒米の栽培場所を視察、意見交換会、酒蔵の打ち合わせを主に行いました。実際に道行竈へ行き、水の豊富さ、田の広さを視察したことで、具体的に活動を想像することができました。また、活動を重ねるごとに道行竈の方のプロジェクトに対する思いを理解することができ、これからの活動をしていく上で参考にしていきたいと思いました。課題として、他の大学や高校でも日本酒造りの活動は行われているため、斬新な他との違いやお酒のストーリー、販売方法を考える必要があります。メンバーそれぞれが考え、アイデアを出していく必要があります。

来年度から約350平方メートルの耕作放棄地を活用して、4月には酒米「神の穂」の田植えを予定しています。

## ●特にアピールしたいポイント

実際に現地に赴き、日本酒造りを行っていく上での過程を知ることができました。来年度からの活動をどのように行っていくか、メンバーそれぞれが主体的に考えることができました。

